

1 度数分布表の読み取り (14~15点)

- 1 8 度数分布表から直接読み取ると、階級20以上30未満の度数は8人である。
- 2 23 全体の度数 = $5 + 8 + 6 + 4 = 23$ 人。全ての階級の度数を合計する。
- 3 155 ~ 160 度数が最も多い階級は155 ~ 160で、度数が12人である。この階級を最頻値が含まれる階級という。

3 資料の分析と文章問題 (各14点)

- 4 0.4 相対度数 = $12 \div 30 = 0.4$ 。階級10以上20未満の度数は12人、全体は30人。
- 5 B組。B組のデータは70 ~ 77点の範囲で75点周辺に集中しており、散らばりが小さいから。 A組は15点から100点と非常に散らばっており、B組は70 ~ 77点で密集している。中央値や範囲を比較すると、B組のデータが平均値の周辺に集中していることがわかる。

4 選択問題 (各14点)

- 6 イ. 1.0 相対度数は各階級の度数を全体の度数で割った値。全ての階級の相対度数を合計すると必ず1.0 (または100%) になる。
- 7 ウ. 0.4 全体の度数 = $4 + 8 + 12 + 6 = 30$ 。最も度数が多い階級は12であり、相対度数 = $12 \div 30 = 0.4$ 。

配点まとめ

度数分布表 (1~3) : 15点×3問 = 44点 文章問題 (4~5) : 14点×2問 = 28点 選択問題 (6~7) : 14点×2問 = 28点

合計 : 100点